

稲荷初午詣・高瀬舟行之図

近年二月初午当日前日とも四条小橋の辺より高瀬舟を出せり。舟毎に長幼男女ほころぶばかりに乗合て、稲荷橋の上り場迄は凡一里の急流一瞬の中なるを、兩岸にはよごれたる頬に紅粉して辻俳優の舞踊りて錢を乞へば、かの淀川なる枚方舟のおもかげして、鼻毛伸たる老爺のあやしのもちひ芋の類ひの煮売をめせと囂く呼立つ。或は堤をかち行人と船客かたみに争ひ、足はなきやといへば錢はなきやなど罵るも、皆春興の一ツにして、花洛舟中の気保養は実に此両日にかぎるなるべし

かへるにはまだ日も高しいなり山伏見の梅のさかり見て来む・景樹